

# 観月台のインペリアル

*Bösendorfer model 290 imperial at Kangetsudai*



## 観月台のインペリアル *Imperial at Kangetsudai*

「ベーゼンドルファー・モデル 290 インペリアル」は、ベーゼンドルファーの象徴的なピアノであり、通常より広い8オクターブの音域は、アーティストが意図する響きを忠実に再現することを可能にします。響板材として最適とされる南チロルのフィエメの谷から伐採するスプルース、ブナ、カエデをボディに使用することで、ベーゼンドルファー特有の力強い音色を醸し出します。

観月台文化センターは開館以来、多くのアーティストを招聘しており、所有する当ピアノは「**観月台のインペリアル**」と謳われ、当ピアノを使用したコンサートの開催の要望が数多く寄せられました。

また、町民もインペリアルと共に芸術的に価値ある時間を共有していたことで、多くのファンが存在します。国見町の文化芸術の向上やそれまで潜在的であった鑑賞者の発掘に大きな役割を担いました。



## 永い眠り *Long Sleep*

しかし、東日本大震災により役場庁舎が半壊したために、役場機能がセンターのホールに移転し、観月台のインペリアルは**永い眠り**につくことになりました。以来、役場の執務スペースとなった観月台文化センターのホールで、インペリアルが弾かれることは無くなりました。

町では、その状況を危惧し、東京FMに復興支援事業として開催いただいたジャズピアニストの木住野佳子氏によるコンサートを最後に、ベーゼンドルファーの品質維持管理に定評のある *B-tech Japan* 東京へインペリアルを一時預け、分解・保管することを決意しました。

それから4年経った平成27年、新庁舎が完成し、役場機能が移転したことから、観月台文化センターはホール事業の再開に向けて準備を始めました。

インペリアルもまた、帰還に向けて、現況確認のため組立を行いました。



## 帰館 *The Return to Kangetsuddai*

多くの音楽愛好家に愛されるインペリアル。町民の文化芸術の振興に大きな役割を果たし続けてきた「国見の宝物」である観月台のインペリアル。保管期間中は、各種会議などでインペリアルの状況を確認する質問や、帰還した際は早期にインペリアルを使用したコンサートを開催してほしいなどの要望や待望の声が数多く寄せられました。

音楽愛好家や県内外のアーティストから、インペリアルの**帰館**には、大きな期待が込められ、その期待を裏切らないために最良の状態に戻すことが必要でした。

導入から20年、震災も経験した観月台のインペリアルは、経年劣化した消耗部品が数多く存在したため、オーバーホールを行い、全ての部品を新しいものに交換し、導入した当時に近い状態で観月台文化センターのホールへ無事帰還しました。



# 生まれ変わったインペリアル *Reborn Imperial*

平成28年、観月台文化センターは本格的にホール事業を再開しました。

今、再び「**生まれ変わったインペリアル**」は至高の音色を奏でます。

ぜひセンターホールの心地よい空間で、心ゆくまで**ウィンナートーン**の音色に酔いしれてください。

*Fin*

